

安曇野自然農学習会 2005

in シャロムヒュッテ

2005年10月16日(日)



「自然農の畑に立ちて」

自然農

自然農、それは「耕さず、肥料、農薬を用いず、草や虫を敵とせず」川口由一さんが提唱する農です。今回も長野県、安曇野のシャロムヒュッテで小田詩世さんと共に自然農を体験学習し、感じたことを皆さんと分かち合えたらと思い書かせていただきました。

自然農学習会も今回で残すところあと2回。今回は、畑では実際に自然農を体験したり、エンドウをトウモロコシの株下に蒔いたり、田んぼでは、稲刈りをしました。

自然農 三種の農具



自然農の道具は、「鍬(くわ)」、「植ゴテ」、そして特徴的なのが「のこぎり鎌」です。鍬は、土全体を耕すと思われがちです。しかし自然農では、土の生態系をこわさない「命の営みのなかで野菜を育てていく」ことを大切にします。だから耕すときも、表土2~5セ

ンチ程度しか耕しません。

のこぎり鎌は、のこぎりの歯がついた鎌です。1)一丁 500 円程度で安価。2) 歯を土の中に入れても大丈夫。2) 研ぐがなくてもよい。と重宝です。あとあれば、左手に軍手・シャベルぐらいあれば簡単に自然農がはじめられます。

自然農法のはたけ



先月、草の上から数十種類の種をばら蒔き、草を刈っただけの自然農法の畑です。世界的ベストセラー『わら一本の革命』の福岡正信さんは、「無為自然」が一番良い。種を蒔くだけでよいといいます。左上の写真のように、大根・ニンジン・春菊・小松菜がところせましと育っています。すごいですね。

自然農を体験してみよう！



体験者は、草を刈る上沢さん、水菜を蒔く新妻さん。

今回は、今までの復習もかねて参加者が、「草の生えたところにいかに種を蒔くのか」体験学習してみました。実際やってみると作業ポイントがわかり、今度は自分でできるようになります。では、自然農の種のおとし方（蒔き方）を復習してみましよう。

簡単に説明すると、まず1) 地上部の草を刈り、2) 土を浅く耕し、3) 種を蒔き、草

を敷く。ポイントは、

- 1) 地上部の草を刈る...自然農は、「地下のものは地下で、地上のものは地上で朽ちさせます。」つまり、地表の有機物は鋤き込みません。根際で草を刈り、根は残します。例外は宿根草の根。のこぎり鎌で取り除きます。
- 2) 土を浅く耕す... 土が固ければ、1～2センチぐらい表層を鋤で耕し平らにます。つまり、草の根を切り、デコボコな表面をならします。これで種が発芽しやすい条件を整えてあげます。
- 3) 種を蒔く... 種は、一度に蒔かず、はじめは薄蒔き。そして調整しながら蒔きますと均一に蒔けます。

そして、のこぎり鎌の背でたたきます。そうすることで土と種が馴染みます。種の表土が足りない場合は、草の種のこぼれていない地中の土をかけてあげます。

最後に鋤の背でたたき鎮圧します。そうすることで、土がしまり水を撒かなくても地中から水がしみてきます。自然農では干ばつ以外ではほとんど水をあげず、雨水のみです。

そして最後に、草をパラパラと敷きます。理想的には、イネ科などの細長い草が最高です。あまり大きな丸い葉ですと、発芽後に光が差し込まず、モヤシのようになってしまいます。草が足りない場合は、稲ワラや森の落ち葉、公園の草で種がついていない青草がいいでしょう。草を敷くことで、保湿でき乾燥を防げます。そうすると土壌生物・昆虫も安心して住めます。

大きな種の蒔き方



今回は、エンドウを蒔きます。支柱を立てる代わりに、夏に収穫したトウモロコシを利用します。エンドウは、マメ科で年を越して来春5～6月に収穫できます。種はグリーンピースくらいでやや大きな部類になります。エンドウや大根、大豆、トウモロコシなど大きな種は、点まきという方法で蒔きます。右上写真のように等間隔に3～5粒ほど蒔きま。地上部の草を刈り、のこぎり鎌で、土を耕し、土を被せ、草を敷く。同じです

詩世さんは、「一粒は、大地に。一粒は、鳥に。一粒は、自分に」と蒔きます。いいですね。こうして発芽したものを、順次強いものを残し間引き、最後に1、2本にします。

種の話



市販の種には、左上写真のように、合成着色の農薬がついたものや、右上写真のように、何もコーティングされていないものがあります。これは、種苗会社が、種を病虫害から守るため、発芽までに農薬・肥料を添加したからです。

自然農では、なるべく国産・無添加種子のほうがあっっているようです。しかし、どうしても手に入らない場合は、自家採種（自分で種を採る）をしてみてもいいかもしれません。自分の畑に合った種が残せますから、栽培がもっと簡単になります。

先月蒔いた種！



左上写真は、ニンニクです。年を越して7月に収穫できます。右上写真は、玉ねぎの苗の発芽です。（黒いのはクン炭です）玉ねぎは、11月に定植し、来年の7月に収穫です。

自然農の土



シャロムの自然農畑の土です。草の亡骸の層の下には、黒々とした湿り気のある土がありました。土は、団子のようにころころと小さな塊（かたまり）になっています。この塊を専門用語で「団粒構造」とよびます。耕さないから多様な生物群集の働きで、土と水と微生物、植物の遺体が結びつき、保水性・通気性を共に持っていて、理想の土といえます。

田んぼで収穫！！



シャロムの田んぼは、シャロムから車で10分くらいのところにあります。

6月に田植えしてから、早5ヶ月が経ちました。見事に黄金色に色ついた穂が、田んぼ一面に広がっていました。

今回は、皆で稲を刈り、天日干しをするために、稲架掛け（はざかけ）をしました。

稲刈り



稲刈りのタイミングは、茎穂の3分の2ほど色づいたら刈り時です。まず、左上写真のように、稲をのこぎり鎌で潔く刈ります。そして、右上写真のように2～3株ずつを一つにして、二つ重ねます。



そして、また2～3株まとめたものを真ん中に乗せます。(ポイントは扇状に3回に分けて重ねます。)最後に、右上写真のように去年の稲藁を2、3本乗せます。

稲束のしばり方



まず、左上写真のように去年の稲ワラを真上からつかみます。そして、右上写真のように、稲束を反転させて、左手で押さえます。



左上写真のようによく押さえつけ、左手で押さえた稲ワラを中心に右手の稲ワラを回転させ、右上写真のように稲束に押し込むと終わりです。(写真と説明不足でごめんなさい。)

このしぼり方は、地方によって異なります。わからなかったら、麻紐できつくしぼってください。稲束がほどけなければいいです。

稲架掛け



お米は、とれた田んぼで、上の写真のように、稲架掛け(はざがけ)にして天日で乾燥させます。そうすることで、葉や茎に残った養分がお米に移り味わいが良くなります。



さて、なんのために稲束を3回にわけて重ねたかといいますと、稲架掛けするときに、左上写真のように2：1にわけて掛けるのです。ひとつでは安定が悪いようですが、実は次に掛ける時は1：2というように中央上写真のように交互に重ねます。そうすることで、稲束がゆれたりせず、重なり合ながらこていされて安定します(右上写真)。

畦豆（あぜまめ）も



田んぼのわき、そう畦でも田植えのあと種をおとした大豆もパンパンに実をつけていました。

大豆は本来田んぼの畦で栽培されていたようで、畦豆と呼ばれていたそうです。

大豆は、葉が全部落葉する頃が収穫時期です。刈った大豆を枝ごと振ると、鈴のように大豆がサヤの中で鳴ります。あとは、よく乾燥させ、脱穀すればいいだけです。

記念写真、はいチーズ！



今回も、皆で自然農を満喫できた大満足な学習会になりました

次回は11月20日（日）です。

【作業予定】脱穀・来年の畑の準備などです。

もっと自然農を詳しく知りたい、そんな方は、川口由一著『自然農 川口由一の世界』（晩成書房）、『自然農から農を超えて』（カタツムリ社）、『妙なる畑に立ちて』（野草社）をご覧ください。今回も最後まで、読んでくださりまして、ありがとうございました。レポートが遅くなったこと申し訳ございませんでした。

(教え手)

小田 詩世(おだ うたよ)さん 1999年にパーマカルチャーと出会い、藤野にあるパーマカルチャー・センター・ジャパン(PCCJ)でパーマカルチャー(PC)について学びました。2001年に、オーストラリアとニュージーランドに行き、複数のPCサイトでウーフ体験。「これは本当に素晴らしいもので、自分のいままでの暮らし方を見直し、変えていく大きなきっかけになりました。」帰国後に、山梨県にある自然農の専業農家で一年間研修。

詩世さんからのメッセージ:「毎日田畑に立つことで、身体で季節の流れを感じ、自然の営みの中で、生きていることを感じています。皆様にも、この一年で、種まき、それが根を出して育っていく、まるで魔法のような自然の営みに触れることで、何かを感じてもらえたらいいなと思っています。私も一年間、皆様と一緒に楽しく、学びあいたいと思っています。お逢いできるのを楽しみにしています。」

(書き手)

竹内 孝功(たけうち あつのり)

Email : takecook3@yahoo.co.jp

福岡正信氏の自然農法をはじめ、川口由一さんの自然農、岡田茂吉氏の自然農法などを学ぶ。現在(財)自然農法国際研究開発センターで研修中。人の顔の数だけ農法があると思っている。自然の真理を学び、無理無駄がないオシャレなオーガニック「ナチュラルオーガニック」を多くの人に紹介したいと思っています。『自然農・自然農法で自給自足のマニュアル(仮称)』小冊子を出版したいと思っています。

来年2006年4月より、長野県松本市梓川梓にて、週末体験農業「自給自足の休日倶楽部」を開園します。ご興味がありましたら、メールください。